

かわねほんちょう 議会だより

第63号

令和3年8月発行

発行 / 川根本町議会
編集 / 議会広報委員会

地名の田んぼで田植え体験



本川根小5年生 秋には豊かな実りが...



代かき 慎重に、慎重に

令和3年6月定例会の報告.....	2~3
南部小・本川根小六年生 議会傍聴.....	4
6人の議員が町政を問う.....	5~11
自主避難を考えよう.....	12
町の話や情報.....	13

シリーズ

明日を拓く人たち(天鹿(シシカミ)プロジェクト).....	14
-------------------------------	----

令和3年6月定例会の報告

6月2日～23日



定例会初日に、諮問1件、報告1件や一般会計補正予算含め議案3件が上程され、これらは定例会2日（15日）に全員賛成で可決（承認）しました。

最終日（23日）は6名の一般質問が行われました。

●諮問第1号 人権擁護委員候補者の推薦について

人権擁護委員法第6条第3項の規定により、松井裕子氏を人権擁護委員に推薦することについて議会の意見を求めるもの。

●報告第1号 繰越明許費繰越計算書について（令和2年度川根本町一般会計予算）



- ・令和2年度一般会計予算の繰越明許費について議会に報告するもの。
- ・高度無線環境整備推進事業費補助金
- ・まちづくり観光協会補助金
- ・町道小長井前山線災害復旧工事など



●条例の一部改正する条例について

川根本町手数料徴収条例の一部を改正する条例について

「行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用に関する法（マイナンバー法）」の改正により、川根本町手数料徴収条例にマイナンバーカードの再発行手数料を定める必要がなくなったため、同項目を削除するもの。

●議案 令和3年簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）

【簡易水道事業】簡易水道会計

全ての水道使用者の7月徴収分の水道使用料を免除するための費用として1億6千750万円を追加し、総額を2億7,227万5千円とするもの。



内容：水道使用料免除事業

対象：令和3年度7月請求分 2,050万円

これは、水道使用者の7月徴収分です。「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業」の一つである国・県からの交付金及び町の一般会計からの繰入金を活用しています。



南部簡易水道青崎配水地

令和3年6月一般会計補正予算（2号）成立

一般会計補正予算は 9,800万円の増額

総額 57億7,700万円

主要内容 ●議案 一般会計補正予算（2号）

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業を一部利用

- ・ 接岨地区集会所建設（建設工事・設計監理） 2,634万3千円
- ・ 子育て世帯生活支援特別給付金 280万円
- ・ 人材育成特別奨学金 168万円
- ・ 川根茶消費拡大販路促進支援事業（PR動画作成） 190万円
- ・ コロナワクチン接種関連予防費等 1,450万5千円
- ・ 飲料水供給施設特別補助 110万円 など



ワクチン接種 従事者の皆様に感謝

令和3年
4月23日(金)

令和3年第2回川根本町議会臨時会

承認1件（専決処分した事件）議案1件（補正予算1号）を全員賛成で可決

●議案 令和3年川根本町一般会計補正予算（第1号）

1億4千万円増額 総額56億7,900万円

【主要内容】

新型コロナウイルス感染症対策として国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金及び県の新型コロナウイルス感染症対策地域振興臨時交付金の事業を計上。

- ・ 事業継続応援給付金交付事業 3,350万7千円
- ・ 第2弾プレミアム付商品券事業 2,710万7千円
- ・ キャッシュレス応援事業 2,552万3千円
- ・ 地域医療体制強化事業（医療環境整備） 841万5千円
- ・ 観光シテイプロモーション活動事業 541万6千円 など



●承認2号 専決処分した事件の承認について

川根本町税条例等の一部を改正する条例について

地方税法等の一部改正する法律が本年3月31日に公布され、併せて地方税法施行令においても一部改正が行われ、この法令の一部改正を受け川根本町税条例等を改正し、本年4月1日より施行する必要から専決処分した。

川根本町の未来を 担う小学生 (6年生) 議会傍聴

6月23日
(水)



中川根南部小学校



本川根小学校

各校の児童が、傍聴の感想を寄せてくれました。
その一部を抜粋して紹介します。

初めて議会を見ました。裁判所のようにとても驚きました。一つの議題に対して皆がよく聴きよく質問して、川根本町の為に頑張ってくださっているんだと思いました。

聴いた話は、リニアモーターカーによる汚水の話でした。汚水は嫌ですが、リニアを利用する人は助かると思います。

(I・Tさん)

議員の皆さんが、良い町にするために話し合っていることがわかりました。町のことを決めるには、いろいろな意見が必要であることを感じました。

私は、「町のことを考えられる人になりたい」と強く思いました。

(S・Oさん)

見学させていただきありがとうございました。一つの議題に一時間の時間をかけて、川根本町の問題点を話し合っていて、うれしかったです。

教科書や資料集で学べなかったことが分かり、良かったです。

これから、川根本町のことをよろしくお願いたします。

(H・Kさん)

町民のこと、観光客のこと、安全のこと、一つ一つのことを良く考えて議決していることがわかり勉強になりました。

がけ崩れ一つで、あんなに意見が出ているとは知らなくてびっくりしました。

僕も町民として、自分の意見をもつことを大切にしたいと思います。

(Y・Nさん)

議会ってどんなことをしているのか知らなかったのですが、実際に見ることができてうれしかったです。

町の問題点について、真剣に話し合いをしており、すごいと思いました。議会をやっている場所が静かで、緊張しました。

(H・Uさん)

本町で、長期に渡る「通行止め」が、起きていたことを初めて知りました。

なるべく早く通行止めを解除したいけれど、安全面や費用面などを考えると、すぐに解決できない難しさもわかりました。

議員の皆さんが、町がもっと良くなる方法は、その方法に問題がないか考えてくれていることが良くわかりました。

(S・Kさん)

社会科学習の一環として、どの子も鋭い感覚で自分なりの思い・考えをまとめてくれました。
「百聞は一見に如かず」です。
現場を自分自身の目で実際に観ることは、知識・理解を高め確実にしていくことと思います。
今後も、「思考—判断—実践」できるように、学び続けることを期待します。



一般質問

質問の概要を発言順に掲載します

- | | |
|-------|--|
| 6ページ | 山本 信之 議員
・リニアに伴う大井川水系の水資源の保全について |
| 7ページ | 澤西 省司 議員
・奥大井県立自然公園への入り口、林道南赤石線通行止めについて |
| 8ページ | 野口 直次 議員
1 更新されたハザードマップ等から自然災害から住民を守るための対策について
2 災害時における情報通信等に高度情報基盤事業の利活用の進捗状況について |
| 9ページ | 中原 緑 議員
1 大井川の汚濁について
2 「脱・炭素社会」について |
| 10ページ | 石山貴美夫 議員
1 町の新型コロナワクチン接種状況と今後の計画について
2 町の魅力づくり「高齢者保健・福祉・介護計画・障害福祉」について
3 町の活力づくり「茶業・観光・商工業の振興策」について |
| 11ページ | 中澤 莊也 議員
1 茶業振興対策について
2 公共交通を補完する高齢者等の交通弱者に対する移動手段の構築について |

6人の議員が町政を問う！

6月定例会最終日に一般質問を行いました

あの一般質問

どうなったかやあ〜

質問者：中澤莊也 議員

空き家等への対策と利活用について

(令和2年3月25日)

Q. 空き家等希望者が気楽に相談できる体制の整備をどのように行っていこうと考えているか。

企画課長. 来年度、移住コーディネーターの配置を考えている。
移住者の相談業務等と合わせて、空き家の相談も行い、それらの活動の中で、よりよい体制、身近な相談員というようなことで、構築したいと考えている。

現 状

平成2年4月県外からの移住者である、神東美希さんを移住コーディネーターとして採用し、町外からの移住希望者のニーズに応えるとともに、空き家等の利活用にも努めている。

移住コーディネーター 神東さんの声

空き家は決して他人事ではなく、自分のこととして考えてほしい問題です。ご自身が、空き家を所有していなくても、ご近所やご親族にそのような方がいる場合は、「空き家バンク制度」を伝えてみてください。

神東美希さん ▶



問

リニアに伴う大井川の水質の保全について

答

水問題を協議していく必要がある



山本信之 議員

質問

大井川流量の全量回復について、地下水脈の変動・表流水の減少・地中の有害物質が及ぼす大井川の水質悪化等に関して、対応策が実行され、担保されるのか、疑問を感じる。

このことについて何

町長

流域八市二町及び県による大井川利水関係協議会を設立し、県が環境保全対策の検討、協議対応組織として設けられた「静岡県中央新幹線環境保全連絡会議」を主体としてオール静岡で対応を、今現在、進めている。

質問

環境保全措置の実施について、自然環境を現時点だけを見据えることなく、将来に引き継がれていくようにする義務があると思うが、伺う。

町長

これまでも不安を払拭するため、地質構造・水資源専門部会・生物多様性専門部会により、トンネル湧水の全量戻し、魚類や水生生物、猛禽類、植物など生物多様性に係る諸問題、トンネル掘削発生土の重金属対策、トンネル湧水や濁水対策等の水質管理など、JR東海と対話を進めている状況である。

質問

トンネルを掘ることによる水涵れは大丈夫かどうか。（環境、問題は水涵れである。）伺う。

町長

環境付近のトンネル湧水量の予測・評価（大量の湧水量の発生の可能性を含む）、トンネル湧水が県外流出した場合の河川流量の変化、トンネル湧水を大井川に全量戻すための現実的な方法の検討などが必要である。

質問

大井川の流量減少について、一旦失われた水は二度と返ってきません。

「命の水」を戻すこと

ができないのであれば南アルプストンネル・ルートはあきらめるべきである。

町長

町としても、水問題に關してもまだまだ協議していく必要があると認識をしている。

山本

リニア計画の本質が一人でも多くの住民に知らされ、住民と事業者との真摯な話し合いがなされ、その方向性を位置付けることが大切だと思う。



榎島付近の大井川



大井川中流域の風景

問

林道南赤石線の早期通行止め解除は

答

県の関係機関に財政的支援の要望を行う



澤西省司 議員

質問

奥大井県立自然公園への入口、林道南赤石線が2年以上通行止めとなっている現状をどう考えているのか伺う。

町長

現在、のり面の経過を観察している状況で、今後、早期の車両通行が可能となるよう施工方法の検討や、更なる財政的支援の採択につきまして県等の関係機関との協議・要望を引き続き行って行きたいと考えている。

建設課長

当初、のり面箇所の立木伐採及び落石防止網工事を計画したが、上部に約1000立方

の土塊があり、施工を取りやめた経緯があり、大変厳しい状況が続いています。県等の関係機関との協議・検討を深め、早期復旧を目指していきたいと考えています。

質問

重点戦略の中の自然は観光振興策と強く結びれています。

寸又峡落石防止工事は毎年数千万円の予算が組まれているが、林道南赤石線の落石現場は2年以上そのままだが、この違いを町長はどのように思いますか。

建設課長

寸又峡の工事箇所とは地形、条件、施工規模についても違う状況です。のり面上部には大規模な土塊があることから、最小限の日鋼による仮設工事で状況を見ながら工法の検討、県への要望等を行っています。



林道南赤石線の崩落現場

質問

日本中に前線が停滞した令和2年7月豪雨災害でさえ土塊は落ちなかった以上、その後、暫定対策とか恒久対策を考えるべきであり、町は一般に対して2年以上通行止めとしていくことに、重点戦略の施策という点から考えれば違和感があると感じるのだが。

町長

町の財政的な一面も考慮すれば有利な補助金は望むところで、災害対応していただくことが非常に補助率も良く、待ちの局面が続いてしまったと思う。

今までどおり、国・県へ当然ながら要望し

質問

て町はやっていくことに変わりなく、先頭になって頑張っていきたいという思いでいっぱいです。

私は令和2年3月定例会で演壇から、町長ご自身が県に林道南赤石線の復旧事業の支援を強く要望していただきたいとお願いました。願いは後日、副町長なり関係者から町長の手元に届きましたか。更にその後、県に対し工事の支援などの要望活動はされておりますか。

町長

当時のことは全て届いています。

建設課長

工法検討も踏まえ要望はしています。先日、県主催による円卓会議の中でも要望したところです。

町長

円卓会議は所長並び

質問

に支所長、農林事務所からも来て、事業説明や町の負担等も協議する場で、話の中で具体的に出ているということにはご理解いただきたい。



ウッドハウスおろくぼ

県立自然公園の玄関と位置づけられてきた「ウッドハウスおろくぼ」はセットなのです。開業と同時に通行止め解除ではなかったのか。

観光商工課長

通行止めの現状では、様々な取り組みを計画し、集客を進めているが、有効的な利用促進が図られないことはやむを得ないと考えています。



野口直次 議員

自然災害から住民を守る対策は

質問

新たなハザードマップには災害種別（地震・風水害・土砂災害）が明記されたが、避難先の矢印はなくなった。各地区の避難先の変更或いは複数ルートも考えられるのかを伺う。

町長

大規模災害の場合には、町内各地で複合的に災害が発生することもあり想定され、避難所によっては、避難できない場所や、道路が避難ルートとして使用できないことが想定される。避難方向を示すので

はなく、災害の状況に応じた避難方法を検討していただくため、災害時に避難所として対応できる災害種別を示すこととした。

避難ルートや避難方法についても、災害の状況に応じた対応を検討して頂く必要があり、

ハザードマップに記載された内容を家族や地域で話し合い、避難行動に役立てていただきたい。



災害時の情報通信等に高度情報基盤事業の活用状況は

質問

平成26年度以前より、災害時の情報発信機能は強化されたのかを伺う。

情報政策課長

整備前は、同報無線戸別受信機を、町全体で約6割配備していた。現在は、かわねフォンを

ほぼ希望する全世帯に設置し、音声だけではなく、文字放送を加えた。屋外子局がなかった地区や、町内の6か所のキャンプ場に簡易的な拡声器を設置し、観光客も含めた災害時の情報発信機能は強化された。

質問

本年度実施される高度無線環境整備推進事業について伺う。

情報政策課長

無線区間を光ケーブルに置き換えるという事業で実施する民間事業者に補助金を支出する。ここ数年発生している落雷による無線機障害を抑え、安定した情報発信につながることで住民の安全安心に資するものと考えている。

整備区域は、沢間、桑野山以北の全域、坂京、尾呂久保、八中、久保尾としており平栗地区を整備対象に含めるよう調整を図っている。

質問

コロナ交付金活用のある利な補助金を確保した担当者の努力に感謝する。今後の利活用に期待したい。

情報政策課長

町内の通信格差が確実に解消されると期待する。インターネットの利用が制限されていた北部エリアを中心にテレワークやオンライン講義等、コロナ後の新生活様式に適合した利活用が期待できる。

質問

運営会社が切り替わるにあたり、上位回線のループ化が検討されていると聞いた。現在の状況を伺う。

情報政策課長

4月1日から上位回線を別ルートで増設し通信速度の改善と災害時における回線の障害に対応した。

質問

これからの時代にお

いて情報政策課が重要視されてくると考えている。今後期待し抱負等を伺う。

情報政策課長

町の大きな課題として5分野での地域情報化の推進を目的にICTの利活用業務を進めてきた。

今後は、全国規模で行政事務のデジタル化である自治体DX推進計画を進めていく。県と市町の多くは組織を再編し推進体制を強化した。当町も早期に計画をまとめていく。



活用しよう「川根フォン」

DX（デジタル・トランスフォーメーション）とはICTの浸透が人々の生活を豊かに変化させること

問

「大井川の汚濁改善」 国・県への要望内容は

答

きれいな水を流すよう、関係機関へ要望する



中原 緑 議員

質問

長島ダムの下流域は汚濁がひどく、観光や生態系に影響はないか。自然環境を守る対策が求められていないか。

町長

大井川に濁りがあることは十分承知している。改善対策は町ではできないので、国・県と関係機関へ現状を伝え、河川環境維持（濁りの原因調査と対策）と「川で人が遊ぶ時は、きれいな水を流すよう」毎度要望している。

質問

長島ダムの環境調査の状況は。

くらし環境課長

濁度や水温等を水深

毎に毎日計測。濁りが少なく、下流の生態系に影響が少ない水温等を考慮し放流。毎月の検査で水質に問題がないか確認している。



4.51m³/秒が長島ダムから放流。(6月10日) 大井川ダムの「清水化バイパス」へ。

質問

大井川ダムの「清水化バイパス」は、建設された平成25年だけダム下流に清水が戻ったが、その後は濁り、悪臭がしたまま。原因は台風によるとのことだが、住民は「壊れている」と思っている。

くらし環境課長

見学会の開催については、中部電力(株)へお

町長

大井川の地質から崩れる山が多く、濁った水が川に流れる。コケは濁った水と、きれいな清水でもできるが、濁った水でできたコケは乾くと臭い。川は水の量より質が大事だと痛切に感じている。

質問

町内小学生は、アマゴ養殖家の方から卵しぼり、受精、稚魚の成長を学習し、漁協の協力も得て、毎年初夏には大井川支流で稚魚の放流もしている。児童が自然を守る地域の私たちの思いに触れる貴重な機会だが、町はどのように考えているか。

教育総務課長

各学校の創意工夫により実施されている。今後、状況を見ながら対応していきたい。

質問

生活排水による大井川水質汚濁防止対策は。

町長

単独処理浄化槽（単独槽）では、生活排水のうち、し尿のみの処理。台所や風呂などから発生する生活雑排水は河川等へそのまま排出されるので、助成制度を設けて既存の単独槽から合併処理浄化槽への切替えを推進し、水質保全に努めている。

質問

川、山の現状を通して、子どもたちへの環境教育をどう考えるか。

質問

くらし環境課長

大井川流域の8市2町で構成する「大井川の清流を守る研究協議会」は『大井川出前講座』として流域の小学校を訪問。総合学習で大井川の水の歴史や水利用の現状を通して、「水の大切さ」を伝える。

くらし環境課長

「水の大切さ」を伝える。

その他の質問

「脱・炭素社会」について

新たな高齢者関連3年計画の 重点ねらいは

住んでよかったと 思ってもらえる町にしたい



石山貴美夫 議員

コロナワクチン接種計画

質問

高評価の町の接種状況と、河野太郎大臣との直接会談につき伺う。

町長

集団接種については高齢者接種から64歳以下に移行し、8月下旬には完了の予定。コロナ感染症収束後の町への経済支援もお願いした。

高齢化対応の新計画

質問

今年度からの高齢者保健福祉・介護保険事業の3年計画の重点は。

町長

公平でニーズに合ったサービス提供、自立

支援、介護予防推進、

包括ケアシステム充

実、地域共生社会実現

に向けた施策展開、医

療介護連携を重点とし

元気な高齢者の多い町

を基本理念としている。

質問

川根本町のお達者度の状況はどうか。

高齢福祉課長

女性は2位と上位だが、男性は12位に下がり、原因検証中。塩分摂取講座は実施した。

質問

空いた公的施設活用で図書館等、生きがい作り千年の学校等の場づくりができないか。

企画課長

各種講座情報等、活躍の場提供が生きがい作りとなり、世代を超えた地域共生社会実現という千年の学校の目標とつながると考える。

質問

ますます重要となった医療と介護の連携は。

高齢福祉課長

タブレット端末を包

括支援センター、訪問

看護ステーションに配

備した。県医師会とも

情報共有を図りたい。

質問

防災上、大井川堆積土砂搬出は重要だが、高齢ドライバーの多い町であり、大型車両・

町民双方への安全対策が急務ではないか。



大井川の堆積土砂搬出車輛

建設課長

町内約400台の大型車両が走行中であり、県との会議の中でも対応等の要望をしている。

質問

町営路線バス・おでかけ号・外出支援の、「町民サービス事業」

としての認識はどうか。

又、アンケート箱の設置はできないか。

くらし環境課長

公共交通サービス業として町民へ十分な配慮と安全運行を考える。

質問

アンケート箱の提案は前向きに検討したい。

生きがいと仕事の面から、シルバー人材センター施設老朽化についてどう考えているか。

高齢福祉課長

相談に乗っていく。

茶業・観光・商業振興

質問

川根茶は重要品、茶農家・茶工場・茶商を一軒も、販売も1円も減らさないという厳しい覚悟が必要。今後の振興策は。

町長

茶業の環境は厳しいと認識している。今後茶振興策を評価・検証し、産地維持と新た

な碾茶栽培を柱に、関係と施策を進めたい。



茶畑

質問

コロナ収束後の観光、商工振興計画見通しは。

町長

個人、少人数、近隣観光に変化する中、選ばれる地域になるよう施策展開したい。商工業維持継続は関係機関連携で支援をしていく。

質問

寸又峡「夢のつり橋」有料化の進捗状況は。

観光商工課長

地元と様々な、協議調整段階である。

その他の質問

看護師・介護士確保対策、障害者グループホーム関連、放棄茶園関連、開業・事業継承補助事業等

問

高齢者等の交通弱者に新たな移動手段を

答

今後の公共交通の在り方も見直す中で検討する



中澤 莊也 議員

茶業振興対策について

質問

耕作放棄地が年々増加している状況をどのように捉え、今後どのような施策を講じていく考えであるか。

町長

耕作放棄地の増加は、生産力低下や地域茶業の衰退、野生鳥獣の住みかとなることによる生活環境の悪化など、大変深刻な問題と受け止めている。町としても、県・農協等の指導



協力を得ながら耕作放棄地の有効利用や農地の集積化の推進、荒廃農地再生等の施策を講じてきたが、傾斜地などの条件不利地にある耕作放棄地への対応が課題であり、景観、生活環境の維持のための農地保全のあり方や、普通煎茶用茶園のみならず碾茶用茶園や様々な作物への転換等の有効利用策も含めた検討が必要だと考えている。

質問

川根茶の将来を考え、共同製茶工場の再編を図る考えはないか。

農林課長

共同製茶組合の再編も永続的な茶業の実現に向けた一つの手段と考えている。なお、現在、県・農協等連携を取りながら共同製茶連絡協議会の構成組合を対象に、実態把握のための座談会を実施している。

質問

川根茶のあるべき姿を数値化し、その目標を達成するため、課題を洗い出し、具体的な施策を講じていく必要があると考える。町の考え方を伺う。

農林課長

今後の川根茶の需給バランス等を検証しながら、目標数値の明確化について、県・農協等の指導を得ながら、生産者・茶商等関係者と協議していくが、まずは、町茶業が抱える個々具体的な課題解決を図りつつ、これに適した形で茶業振興策を展開していければと考えている。

公共交通を補完する高齢者等の交通弱者に対する移動手段の構築について

質問

デマンドタクシーの運行範囲を旧町をまた

ぐものに拡大する考えはあるか。

町長

平成31年3月の青部バイパス開通に併せて北部デマンドタクシーにおいて、旧町間をまたぐ一部乗り入れを実施している。

運行範囲のさらなる拡大については、今後検討していきたい。



デマンドタクシー おでかけ号

町長

他の市町までの運行拡大は可能であるが、実施する場合には、他市町の公共交通会議等において協議が必要となる。

質問

町が運行主体として、「許可登録を要しない輸送」を行う考えはあるか。

町長

許可登録を要しない輸送とは、利用者から運賃を徴収しないで運行することであり、県補助金の助成対象とならないことから、運行に係る経費は全額町費負担となる。許可登録を要しない輸送については、財政面からしても大変厳しいものであり、現在のところ考えていない。

質問

デマンドタクシーの運行範囲を他の市町まで拡大することは、可能であるか。可能であるならば、他の市町の公共交通会議等において、協議する考えはあるか。



身近に迫る災害で自主避難を考えよう

7月3日に熱海市伊豆山地区で大規模土石流が市街地を襲い、死者が出る大災害になりました。

川根本町では2日午前の大雨警報発令後、3日の午後3時まで525ミリの大雨がありました。幸いにも人的被害はありませんでした。しかし、頻発する町内の土砂崩れは（写真）、いずれ身近な場所で災害が起こることを予感しなければなりません。



地名・土砂崩れ現場・令和3年3月24日



寸又峡線落石状況・令和3年6月23日



水川林道・道路陥没・令和3年7月3日

線状降水帯 は、危険



自主避難で豪雨災害（洪水・土砂災害）から家族を守ろう

- ①最近の日本全国で起きている豪雨災害は「浸水区域・急傾斜地」など、**ハザードマップ**とほぼ一致している。
- ②役場が配布した**ハザードマップ**を確認して、自宅の安全度をご自身で判断する必要あり。
- ③天気予報を見て心配になったら、**迷わず自主避難**の準備をする。
- ④状況判断は世帯によって違います、決断したら**区長**さんに**避難所の開設**を頼む。



自主避難は恥ずかしくない、**身を守る行動**です
自主避難が今後、習慣になれば**災害に強い町**となります

町の話題や情報



コロナワクチン接種

新型コロナワクチン接種事業費 **5,350万5千円**
令和3年度補正予算後／財源：国庫補助金・国庫負担金

町はファイザー社の「新型コロナウイルスワクチン」を、希望する町民全員に効率的に接種が完了できる計画を策定・実施しています。接種は県内で最も早いペースで進んでいます。

川根本町の接種状況

7月28日現在

対象	接種時期	接種率(%)
医療従事者(130人)	4月16日～	100
65歳以上(3200人)	4月27日～	95.16
64歳以下(2980人)	6月30日～	75.7

※集団接種完了日 **8月18日**

※事業完了日 **令和4年2月28日**



ワクチン接種100～300人/日(山村開発センター他)

かわね支え愛商品券

プレミアム付き用途別商品券事業 第2弾!

コロナ禍で、売上が減少している町内事業者(宿泊業、飲食業、小売業、サービス業)への支援策です。町内の「消費促進」、町民の「消費負担軽減」を図ります。

プレミアム率100%で支え合おう!



- ◆予算額：2,710万7千円
(国臨時交付金1,500万円 県交付金1,100万円 町110万7千円)
- ◆発行数：12,000冊
- ◆発行期間：7月1日～10日(町民限定)
7月21日以降(町内勤務の町外者も可)
- ◆有効期限：令和3年9月30日まで
- ◆第2弾は、券ごと用途(利用店)を限定したA・B・C券に、用途無制限の共通券が加わりました。
- ◆1冊で4,000円分が利用できる商品券を、現金2,000円で販売(商工会窓口) ※上限2万円
- ◆取扱店の中には、支え愛商品券の利用者に対して特別プレゼント等を用意している店もあります。

景観伐採

森林環境譲与税事業 令和2年度予算 2,386万7千円

町は景観や防災の視点で、各区から寄せられる要望に応え「里山林整備事業」を計画的に実施しています。

その効果が現れている一部を紹介します。



伐採後、久野脇が望めるようになった地名峠



伐採された県道77号の下斜面

前号に続き、町の森林で未来の森づくりを考え活動するグループ「天鹿（シシカミ）プロジェクト」の紹介です。

シリーズ2

パーマカルチャー視点での森創りとは？

発起人 横山慎一郎氏（水川区）

●パーマカルチャーって何？

Permaculture（パーマカルチャー）の語源は、Permanent（永続性）と culture（文化）を組み合わせた造語であり、1970年代にオーストラリアで生まれました。現在、地球環境と共生しながらより豊かな社会を築きあげていこうと取り組む世界中の都市や町、農村地域などで広がりを見せています。この culture「文化」という意味合いの中には、agriculture（農業）も含まれていて、農的な暮らしに基づく自給自立のシステムを、個人としての暮らしの中や地域社会の中でベースとして構築しながら、人としての創造性の自給自立も促し、母なる自然との関係性をどのようにデザインしたら、あたらしい永続可能な文化を生み出していけるのか？そして人が暮らしていくことが地球環境を壊していくのではなく、自然や文化をより豊かにしていけるようにするための包括的な体系手法となっています。

●パーマカルチャーと森創り

自然界をゆっくり観察していくと、“地球は森になろうとしている”といえるような事象が見えてきます。大地は裸地の状態から草原、若い森、極相林へと動的に変化していきます。パーマカルチャーを取り入れた森創りでは、この地球の意志とも見てとれるような事象の力や動きを、人間本位の目線のみで利用したり留めたりするのではなく、その進化の流れを最大限に開放し促し（自然目線に立ち）、また状況に応じては、遷移の流れを若い森の段階で留めておく中で（遷移の時間軸の中で草原から若い森の段階が、土壌の腐植が最も豊かで生産性の高い段階）、森や自然界の持つ力を最大限に維持し、土地に見合った健康な自然林を育ていながら、現代社会の人の暮らしの循環性も豊かに巡っていくことを目指し、かつての里山のように積極的に森に関わろうとしています。

※次回 最終回は、具体的な森創りについてのお話など

◆ 9月定例会の予定 ◆

9月1日 (水)	9:00~	本会議（定例会・初日）
	本会議終了後	議会運営委員会・ 全員協議会
9月13日 (月)	9:00~	本会議（定例会・2日目）
	本会議終了後	議会運営委員会・ 全員協議会
9月21日 (火)	9:00~	本会議（定例会・最終日）
	本会議終了後	全員協議会

※会期中に決算特別委員会が5日間開催されます。

- 本会議場は役場本庁3階です。
- 日時は変更することもありますので、詳しくは議会事務局（56-2229）までお問い合わせください。

議会はどなたでも傍聴できます。

●表紙の写真（地名の水田）



地名の水田
田植え体験
秋には、黄金の稲穂が実ることを願います。

梅雨の合間を縫い、6月10日に本川根小5年生11名が地名の水田で田植え体験を行いました。水の張った田んぼにはだしで入り、おじさんに教えていただいたとおり一列に並び、前後・左右の列を揃えて丁寧に植えていきます。はだしで泥の田に入ったときの子どもたちから「キヤー冷たい」、「気持ちいい」という声が聞かれました。秋には、自分たちの植えた稲を、丁寧に刈り取り、はんにて干し、脱穀する体験活動を行う予定です。

編集後記

「わかりやすい議会だより」をめざし、編集に取り組みました。今回は、6月定例会（主として、一般会計の補正予算）に関連して、コロナ感染症対策の一つである「ワクチン接種」についても触れました。

今後も、町民の皆様には「議会だより」を通して、できる限りの情報を提供し、ご愛読いただけたらという気持ちでいきたいと思っております。

【議会広報委員会】

委員長 澤西 省司
副委員長 杉山 広充
委員 野口 直次
中野 直次
中原 緑